

2017 年度 (平成 29 年度) 学校評価自己評価表

大門	中学校区	校番	福山市立 大津野小 学校
最終更新日		2017年(平成29年)10月26日	

I 福山市
 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・力量ある教職員の育成 ・地域行事への参加等により地域を愛する児童生徒の育成 	児童生徒の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・表現力が弱い。 ・自尊感情の低い児童生徒が固定化している。 ・欠席率は低いが、体力向上ができていない。 ・目的意識をもった地域行事等への参加が不十分である。 	育成する力 <small>(21世紀型“スキル&倫理観”)</small> 課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
		めざす子ども像 <small>(義務教育修了時の姿)</small> 自ら考え、学び、自尊感情の高い生徒
		中学校区として統一した取組等 <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画（年間指導計画一覧表）に基づく「見せる・見る授業」を実施する。 ・書く活動を1時間の授業の中に位置づける。 ・自尊感情を高める取組を継続する。 ・レーダーチャートを活用し学級力を高める取組をする。（年4回アンケート実施） ・家庭学習ががんばり週間後の漢字確認テストを校区3小学校で作成・実施する。

III 自校

ミッション 見えない「人間の根っこ（学問・社会性）」を育てる		育成する力 <small>(21世紀型“スキル&倫理観”)</small> 課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力	
学校教育目標 大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力		めざす子ども像	1・2年 自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。
現状 〈児童生徒〉 ○自分のことばでめあてに対するまとめや振り返りを書くことができる児童が増えたが、基礎学力・活用力は低い。 ○給食指導の強化により、給食残量が減ってきた。 △いろいろな場を設定し、認め合う中で自尊感情が高まってきたが、低い児童が固定化している。 〈授業〉 ○課題追求型のめあて設定や評価規準の提示を通して、教師の授業に対する意欲は向上してきた。 △教師主導で、知識理解・習得のための授業が多い。児童が主体的に課題を発見したり、疑問に思ったことを追求したりする授業が少ない。思考力・表現力を培う授業づくりが必要である。 △学級会活動における児童の育ちの学級差が大きい。			3・4年 疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。
			5・6年 疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。
		教科等	国語科・特別活動
		研究	主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～
		めざす授業の姿	自ら考え、学び、友達と協働しながらともに高まり合う授業 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを根拠をもとに書くことができる授業 ・児童が互いに学び合い、「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成		継続	国語科・算数科における基礎学力を高める【思】	C児童への具体的な手立てを個別計画を立て、行う。	国語科の単元テストの全観点において、60%未満の児童を低学年6%,中学年9%,高学年12%未満にする。【単元テスト】	□単元テストは12学級中10学級が達成し83.3%。	3	3	・課題のある学習内容について補充できる単元を学年で確認し、見通しを持って指導する。					
							算数科の単元テストの「技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%,中学年9%,高学年12%未満にする。【単元テスト】	□単元テストは12学級中11学級が達成し91.6%。 □C児童に対する具体的な手立てを行い、単元テストは12学級中9学級が達成し75%。	3	3	・C児童への取組の記録と、ヒントカードなど有効であった物をファイルに残す。 ・記録をもとに学年主任会や学年会で毎月交流する。				
							□まとめや振り返りが書ける児童は12学級中9学級が達成し75%。 □教科用語やキーワードの提示は、11学級中8学級が達成し、達成率は72.7%。	3	3	・まとめ方を提示する。 ・まとめや振り返りを交流し、自力で書ける児童が増えるようにする。					
1	主体性・積極性の育成	★	新規	自ら考え、動く児童を育てる【課】【主】	OPT（大津野プロジェクトタイム）を月1回実施する。	学級力をレーダーチャートにおける「目標達成力」を80%以上にする。【毎月のレーダーチャート】	□レーダーチャートは16学級中14学級が達成し87.5%。 □OPTは16学級中16学級が達成し100%。	4	3	・取組後は必ず振り返りを行い、次につなげる。 ・OPTについてさらに取り組みやすい方法を考えていく。					
				自尊感情を高める【主】【共】	自尊感情を高める活動を年間6回以上取り組む。	「自分の良さは周りから認められている。」と肯定的に評価する児童を85%以上にする。【児童アンケート】	□児童の肯定的評価は16学級中9学級が達成し56.2%。 □自尊感情を高める活動をかがやき班遠足後と体育発表会後の2回実施。	3	2	・頑張っている児童を教職員全員で付箋紙を使って評価し、頑張りや素敵なところを紹介する。					

1	たくましい体の育成	見直し	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目についてめあてをもち、家庭学習や体育の準備運動に取り入れる。	新体カテストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【体カテスト】	□96種目中59種目が達成し、種目率は61.4%。達成率は94.4%。 □効果的な指導方法について研修をしたり、体育朝会でポイントを紹介したりした。	4	3	・体育の授業の導入で、鬼遊びや20mダッシュを取り入れ、持久力や瞬発力を高める。 ・外遊びの充実を図る。					
			毎日の給食残量状況を学級別にグラフに表し、毎月表彰する。	給食の残量が全校合わせて1.0kg以下の日を月の半分以上にする。【給食残量】	□4～9月までの毎月達成し100%。	4	4	・全学級が達成できる日を増やせるように、がんばり表のシールの色分けをしたり、放送で紹介したりする。						
2	教職員の授業力向上	★新規	児童が自ら考え、学ぶ授業をつくる【課】【主】	学期に1回、学年で互いに授業研究をし、授業を見る・見せる。	「勉強がよく分かる。」と肯定的評価する児童を90%以上にする。【児童アンケート】	□児童アンケートは16学級中12学級が達成し75%。 □見る・見せる授業は全学級が実施し、100%。	3	3	・児童のつまずきを予想し、具体的な手立てを1つ以上考えて指導する。 ・他学年の授業も積極的に参観する。					
2	保護者・地域から信頼される学校の創造	新規	地域に愛着をもち、ほこりをもった児童を育てる【共】	年2回以上地域の人とふれあう授業をつくる。	「大津野が好き。」と言える児童を70%以上にする。【児童アンケート】	□児童アンケートは91.3%で、達成率は130.4%。 □地域の人とふれあう授業は、年間計画に沿って進めており、100%。	4	4	・カリキュラム・マップをもとに、ふるさと学習をさらに充実させる。 ・大津野の良さに気づく場面をつくる。					
		見直し	子どもの育ちが見える情報を積極的に発信する【共】	学級・学年日より・HPをタイムリーに月2回発行・更新する。	「学校の様子がよく分かる。」と肯定的評価している保護者を80%以上にする。【保護者アンケート】	□保護者アンケートは81.7%で、達成率は102.1%。 □学級・学年日より・HPの発行は、100%。	3	4	・児童の頑張りや様子について保護者と細やかに連携をする。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。